

船橋 話

50年、33年に一度など

限られたときにしか 見られない文化財

船橋市の文化財のなかには、限られたときにしか見られない貴重なものもあります。千葉県無形民俗文化財「下総三山の七年祭り」は6年ごとの丑年および未年に行われ、数え年で7年ごとに行わ



▲下総三山の七年祭り

れることから“七年祭り”と呼ばれています。船橋市・八千代市・習志野市・千葉市から九つの神社が下総三山に集まる寄合祭りです。行事は9月の小祭、11月の大祭からなり、大祭は3日間にわたって行われます。今回は平成27年に行われます。

夏見の長福寺に安置されている市指定有形文化財「木造聖観世音菩薩立像」は、50年に一度御開帳されます。像は像高56.8cm、蓮台に立ち、厨子に納められています。現状は古色一色ですが、これは元禄期の補修の際のもののみられ、かつては漆箔が施されていたと思われます。近年では平成元年(1989)に御開帳されました。

33年に一度御開帳される市指定有形文化財「木造観世音菩薩立像」は藤原観音堂の本尊で、像高は83cm、頭部と体幹部は一木で造り、両肩より先の部分と両足、天衣は別材です。江戸時代前期に成立した藤原新田に建てられた堂に、元禄3年(1690)、藤原とゆかりの深い行徳の徳願寺から観音像を請い受けて安置したといわれ、当初から秘仏とされていました。観音菩薩は33通りに姿を変えて衆生を救うということに由来し、33年に一度、御開帳されてきました。近年では平成6年11月に御開帳されています。



▶長福寺の木造聖観世音菩薩立像



▲藤原観音堂の木造観世音菩薩立像